

毎週火・金曜日発行（当日が休日に当たるときは、休日の翌日）

○福島県監査委員  
監査公表三件

目  
次

福島県監査委員

# 福島県報







## (指導事項)

固定資産、流動資産の管理・経理に適正を欠いているものがある。  
監査の結果、次の1件の検討事項について改善のための検討を求めた。

## (検討事項)

修繕費の単独随意契約について検討を要するものがある。

対象機関 福島県病院局  
実施年月日 令和2年8月3日  
実施方法 実地監査  
担当監査委員 佐久間俊男  
佐竹浩

## (福島県立病院事業)

## 1 決算及び財務の状況

令和元年度における決算及び財務については、事業経営の実態を正しく反映しているとともに、財務に関する事務の執行については、おおむね適正に執行されたものと認められる。

## 2 事業経営の状況

県立病院は、大野病院が東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い休止しており、当年度における利用可能な施設は、4病院1診療所、許可病床数356床である。

令和元年度の患者数は、入院が延べ60,546人、外来が延べ106,224人で、前年度と比較して、入院は3,106人(4.9%)の減少、外来は555人(0.5%)の増加となっている。増減の主な要因としては、入院は南会津病院の内科及び整形外科の医師数減少等により患者が減少し、外来は矢吹病院の児童思春期外来に係る患者が増加し、また、ふたば医療センター附属病院の救急病院としての地域における認知が進んだことなどにより患者が増加している。

経営実績では、医業収益2,992,609,326円に対し医業費用が6,808,321,917円となり、医業損失は3,815,712,591円で前年度と比較して41,338,601円(1.1%)減少している。

また、事業収益7,545,992,489円に対し事業費用が7,180,441,575円となり、純利益は365,550,914円で前年度と比較して320,445,613円増加している。純利益が増加したのは、旧会津総合病院看護師寮跡地等の売却により固定資産売却益が増加したことなどによるものである。

令和元年度において一般会計から繰り入れられた負担金・補助金は、総額3,721,471,387円となり、主に退職手当対応経費の増加により前年度と比較して94,831,814円(2.6%)増加している。

このうち宮下病院、南会津病院については、医業収益の減少等により損失が増加したことから、収支差補てん額は1,355,291,654円で、前年度と比較して47,622,407円増加している。

累積欠損金は主に廃止病院に係る減価償却費により発生したもので、期末残高が6,562,707,930円となり、固定資産の売却により前期末より365,550,914円減少している。

監査した限りにおいて、監査の対象となった事務は法令に適合し、正確に行われ、最少の経費で最大の効果を挙げるようにして、その組織及び運営の合理化に努めており、重要な事項は認められない。

対象公所 県立大野病院  
実施年月日 令和2年8月3日  
実施方法 書面監査  
担当監査委員 佐久間俊男  
佐竹浩

## 事業経営の状況

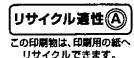
当病院は、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故に伴い、平成23年3月12日から休止となっており、入院及び外来の実績はない。

事業収支について、収益が89,047,370円で前年度と比較して152,253,687円(63.1%)、費用が98,113,359円で前年度と比較して153,473,490円(61.0%)とともに減少し、純損失は9,065,989円で前年度と比較して1,219,803円(11.9%)減少した。

収益の主なものは長期前受金戻入であり、費用の主なものは減価償却費である。

監査した限りにおいて、監査の対象となった事務は法令に適合し、正確に行われ、最少の経費で最大の効果を挙げるようにして、その組織及び運営の合理化に努めており、重要な事項は認められない。

(監査総務課)



再生紙を使用しています。

この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

【定価 1箇月 3,560円】

発行者 福 島 県  
印刷所 株式会社 第一印 刷